

岩沼市民バス運行業務評価（概要）

1. 利用状況（令和元年4月～令和3年3月）

- 市民バス：117,922人（前年度より31,859人の減少）
年間の1便あたりの平均利用者数5.2人
- デマンド：西部区域 810人（前年度より50人の増加）
東部区域 1,431人（前年度より220人の増加）
- 復興路線：矢野目線 20人（前年度より16人の減少）
新浜線 443人（前年度より93人の減少）

2. 評価

【目標値】

指標の背景	評価指標	現状（H27年度）	目標値（R3年度）
高齢者にやさしく 利用しやすい バス交通	市民バスおよびデマンド交通の年間利用者数 【年間の1便あたりの 平均利用者数】	14.2万人 【6.5人】	16.0万人 【7.3人】

【見直しの評価基準】

- 各路線の見直し：年間の1便あたりの平均利用者数 4人/便
- 運行経費と運賃収入等の差額：年間約7,500万円
- バス全体の運行見直し：運行経費と運賃収入等の差額が過度に増加すると見込まれる場合

【評価・今後の改善等】

- 現在の運行体系（2つの循環線と5つの支線への整理）については、例年の利用状況から一定の定着が図られていることが確認できますが、今年度に限れば、新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、利用が減少したことを鑑みると、見直し等を行う場合には同じ利用実績値でも例年のような考え方と同じ参考数値として安易に使用することは難しいと考えます。
- 令和3年度から残り1年間の本格運行の期間においては、大規模な見直しは行わず、各路線の軽微な見直しや利用促進に向けた取組を行うものとしつつ、各路線の大きな課題の抽出や分析を続けることが必要と考えます。
- また、各路線の見直しについては、「玉浦循環線」、「大師線」が評価基準を下回る結果となったことから、今後は震災復興路線をはじめ、路線付近の地区全体での見直しやスクールバスとの住み分け等検討の余地があると考えます。
- デマンドタクシーについては利用者が固定化されており、新規の利用があまりないため、周知活動として地区への説明会等を行う必要があると考えます。
- 震災復興路線は利用が低迷しているため、改善の余地があると考えます。
- デマンドタクシーおよび震災復興路線の運行見直しについては、運行事業者との協議調整を行いながら、交通体系全体で検討する余地があると考えます。